

小金井市立小金井第二中学校

令和4年度 第1回進路説明会

【本日の流れ】

① 学校長より

② 心構えについて

③ 入試制度および概要について

④ 今後の進路関係スケジュール、奨学金制度等について

小金井市立小金井第二中学校

令和4年度 第1回進路説明会

【本日の流れ】

- ① 学校長より
- ② 心構えについて
- ③ 入試制度および概要について
- ④ 今後の進路関係スケジュール、奨学金制度等について

心構え

主体的に進路を選択し決定する

仲間と助け合い、支え合う

学校生活を大切にする

小金井市立小金井第二中学校

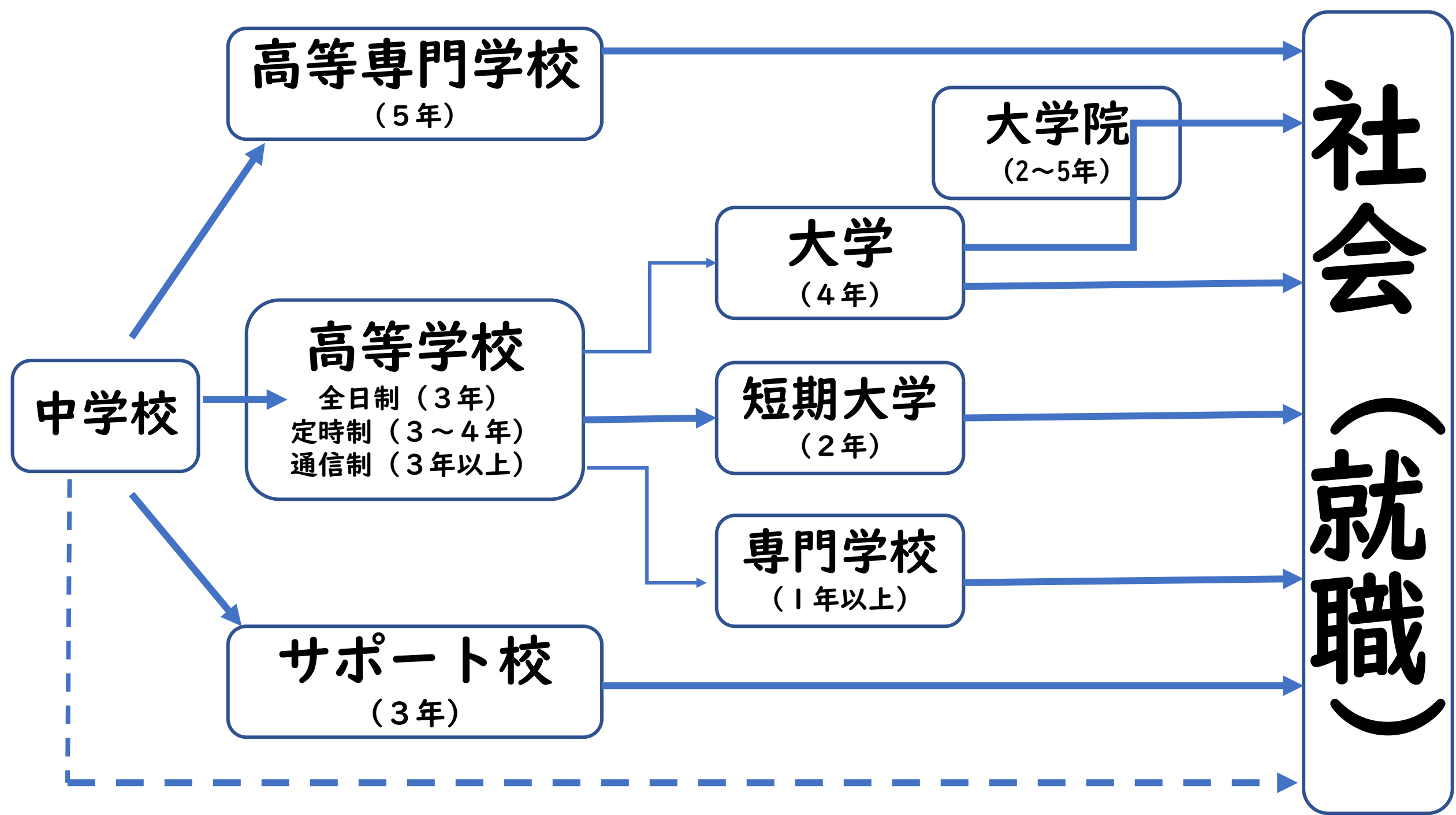
令和4年度 第1回進路説明会

【本日の流れ】

- ① 学校長より
- ② 心構えについて
- ③ 入試制度および概要について
- ④ 今後の進路関係スケジュール、奨学金制度等について

進路決定に向けて①

進路先を決める



高等専門学校

修業年限5年。卒業後は短大卒業と同等の資格、高度な専門教育を行う学校。

高等学校

都立・私立・国立の3種類がある。
原則3年で卒業。

専修学校

社会で働くために必要な技術や知識を身につけることを目的とした学校。

サポート校

通信制高等学校の単位取得をするための学習を支援する学校。
単位取得で高等学校卒業資格を得られる。

就職

企業等に就職し、働く。

進路決定に向けて②

志望校を決める

志望校を決めるために①

相手（志望校）を知る

自分を知る

志望校を決めるために②

場所
(通学時間)

教育方針
(校風)

設備
(校舎・校庭)

授業
(ICT・少人数)

進路先
(大学・就職)

部活動
(活動・実績)

資格

校則・制服

特色ある
活動

相手（志望校）を知る

多くの学校の情報を
広く収集できる

本
(受験案内)

インターネット

卒業生の話

説明会

体験入学
(授業・部活)

個別相談会

特定の学校の情報を
より詳しく収集できる

自分を知る



自分を見つめ直す

● どのような高校生活を送りたいのか？

〇〇部に入りたい 英語を身につけたい

友達の輪を広げたい 〇〇〇の資格を取りたい

● 高校卒業後はどんな道に進むのか？

大学で〇〇を研究したい こんな仕事に就きたい

外国で働きたい 人の役に立つ仕事をしたい

● 得意なこと・好きなことは何だろうか？

施設が充実してるなあ!

好きな〇〇を学びたい!

どんな部活があるのかな?

〇〇部に入りたい!

相手を知る

自分を知る

短期留学ができる

英語が好き!

体験学習が充実

面白そうな行事だ!

この学校で〇〇を頑張りたい!!

入試制度①

都立高校編

全日制課程

朝から午後までの日中に授業を行う。

定時制課程

夜間、もしくは定められた時間帯に授業を行う。

通信制課程

原則自宅等で学習し、レポート等を提出したり、定められた日に登校する。

学年制

学年ごとに学習内容が定められている。

単位制

学年の区別なく、3(4)年間の間に定められた単位数を取得すれば卒業が認められる。

都立高校の種類～学科～

普通科

農業関連学科

情報関連学科

福祉関連学科

国際関連学科

デュアルシステム科

科学技術科

普通科(コース制)

工業関連学科

科学技術科

芸術関連学科

水産科

併合科(島しょ部)

ビジネスコミュニケーション科

創造理数科

商業関連学科

家庭関連学科

体育関連学科

総合学科

都立高校の種類～特色～

進学指導重点校

進学指導特別推進校

進学指導推進校



大学進学に
力を入れている

昼夜間定時制高校



多様な
ライフスタイルを尊重

チャレンジスクール

エンカレッジスクール



学力検査を
行わない

都立高校 入試の種類

推薦に基づく選抜
(推薦入試)

一般推薦

文化・スポーツ等特別推薦

理数等特別推薦

学力検査に基づく選抜
(一般入試)

第一次募集・分割前期募集

分割後期募集・第二次募集

都立 推薦入試の選考方法

必須

- ◆調査書点
(綜合成績の50%以下)
- ◆個人面接・集団討論点

選択

- ◇小論文点又は作文点
- ◇実技検査点
- ◇学校設定検査点

綜合成績

※『自己PRカード』
は個人面接の資料と
して活用します。

個人面接（集団討論）

推薦入試は「思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力」や「コミュニケーション能力」などを評価し、選抜することを目的としています。そのため、一般推薦では『集団討論』と『個人面接』を組み合わせ実施します。

【個人面接】

出願の動機・理由、興味・関心、規範意識・生活態度や自己PRカードの記載内容などを確かめ、これまでの経験を今後の高校生活で生かせる力があるかどうかを確認します。

【集団討論】

与えられたテーマについて自分の考えを明確に述べることができるか、複数名の受検者同士が一つのテーマに関して論理的に議論を進めて、結論を導くことができるかなどを確認します。

都立推薦入試 選抜方法

綜合成績(合計点)

①

調査書点

観点別評価か
評定を点数化

+

②

面接・集団討論点

両方の検査を
合わせて点数化

+

③

作文／小論文点
または実技など

各学校いずれか
の検査を実施

※調査書点の配点の割合は**綜合成績の50%以内**

現在地を知る手段を学ぼう [都立一般入試編]

★都立一般

学力検査: 700点満点 (100点×5教科×1.4)

国語	数学	理科	社会	英語	合計
					/ 500

4月28日の実力テストの点数で予想点を出します。

調査書点: 300点満点

国語	数学	理科	社会	英語	音楽	美術	体育	技家	合計
									/65

合計×1倍

合計×2倍

学力検査 700点満点	調査書点 300点満点	合計 1000点

7月、11月の面談ではこれらの数値も参考に面談をします。

①男女別に綜合成績で並べ、男女各9割
(この場合は18名ずつ) までを、合格者
として決定する。

②残りを男女合同の綜合成績で並べ、
1割(この条件だと4名)を合格者
として決定する。

[男子]

1 853点
2 849点
.
.
.
18 725点
19 721点
20 716点
21 705点
22 696点
23 682点

[女子]

1 874点
2 872点
.
.
.
18 743点
19 732点
20 726点
21 722点
22 711点
23 682点

合格者

男女合同の
総合順位に並べ直す

女 19 732点
女 20 726点
女 21 722点
男 19 721点
男 20 716点
女 22 711点
男 21 705点
男 22 696点
男 23 682点

合格者

都立 一般入試の選考方法

総合得点
(1000点満点)

総合成績

学力検査点

自分のとった入試の得点を700点満点に換算

+

調査書点

自分の内申を65点満点に換算し、それをさらに300点満点に拡大

+

ESAT-J

中学校英語スピーキングテスト
都内中学3年生全員を対象に実施
20点満点で都立入試一般総合得点に加点

全日制課程の学力検査と調査書の比重は原則**7:3**

都立高校で用いられる 自己PRカード

(様式12) (A4判)

受験番号	コース・科(分野)・部	受験番号	コース・科(分野)・部
文化・スポーツ等 特別推薦		一般推薦	
		一般選抜	

自己PRカード

東京都立 _____ 高等学校長 殿
_____ 年 _____ 月 _____ 日
_____ 立 _____ 中学校
氏 名 _____

- 1 志望理由について
(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考にして記入しましょう。)

- 2 中学校生活の中で得たことについて
(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。)

- 3 高等学校卒業後の進路について
(将来の夢や目標、将来になりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていることを具体的に記入しましょう。)

(注意) 1 志願者が黒のボールペンで記入する。
なお、コピー等鮮明な表記のものは認める。
2 推薦に基づく選抜を志望する者、学力検査に基づく選抜において面接を実施する都立高校を志願する者は、この自己PRカードを出願時に提出する。また、面接の対象となる者、一般の学力検査における引揚生徒の受検についての措置又は定時制成人受検者特別措置により受検する者についても、出願時に提出する。

受験番号	コース・科(分野)・部	受験番号	コース・科(分野)・部
文化・スポーツ等 特別推薦		一般推薦	
		一般選抜	

自己PRカード

東京都立 _____ 高等学校長 殿
_____ 年 _____ 月 _____ 日
_____ 立 _____ 中学校
氏 名 _____

1 志望理由について

(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考にして記入しましょう。)

① 志望理由

入学を志望した理由と、
自分が取り組みたいことを、
本校の期待する生徒の姿を参考にして記入。



受験する高校の授業見学、説明会等に参加したり、パンフレットを読み込んでおかないと書けない。

2 中学校生活の中で得たことについて

(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。)

② **中学校生活の中で得たこと**
中学校生活の中で、自分が特に伝えたいことを、学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて 具体的に記入



部活動、委員会、学級活動、学校行事、ボランティア、習い事などを通し、何を学んだか、体験から学んだことを書く。

自己PRカードの提出等について

検査内容	面接がある	面接がない
入学願書提出時	<u>提出必要</u>	—
面接時	面接資料として活用	—
合格発表後	—	<u>提出必要</u>

- * 一般入試において面接を実施しない都立高校を受検し合格した者は、推薦入試において同じ都立高校を受検した際に「自己PRカード」を提出している場合でも、改めて「自己PRカード」を作成して、指定された期日に提出することになります。

入試制度②

私立高校編

私立高校 入試の種類

推薦に基づく選抜
(推薦入試)

推薦入試

学力検査に基づく選抜
(一般入試)

第一志望優遇

併願優遇

一般受験

過去の私立高校推薦基準例

- ①本校を第一志望とし、合格した場合は必ず入学することを確約できる者
 - ②中学校が推薦するにふさわしい人物として認めること
 - ③3年次の欠席日数が5日以内で、3年間の欠席日数が10日以内であること
 - ④5科20以上。各種検定（英検・漢検・数検）で準2級以上を有する者は、
2点加点する
 - ⑤全教科評定に2以下がなく、かつ理科と社会の評定が5であること
 - ⑥本校の学校説明会に参加していること
- *推薦入試制度を利用して合格した場合は、合格後の入学の辞退、他校の受験は一切できません

私立高校 入試の種類

推薦に基づく選抜
(推薦入試)

推薦入試

学力検査に基づく選抜
(一般入試)

第一志望優遇

併願優遇

一般受験

一般入試【第一志望優遇】

- ・受験校が第一志望で、必ず入学することを条件に、入試得点に加点して優遇してもらう制度。事前に入試相談が必要となる。

一般入試【併願優遇】

- ・他の学校が第一志望で、その第一志望校が不合格となった場合は、必ず入学することを条件に、入試得点に加点して優遇してもらう制度。事前に入試相談が必要となる。

私立校との併願優遇はできない私立高校もあります

入試制度③

入試制度

都立・私立 相違点

共通点【推薦制度活用】

- 第1志望であること
- 中学校長の推薦が必要
- 一般入試よりも早い時期に試験実施

相違点【推薦制度活用】

【都立】

- 評定値等の明確な推薦基準がない
- 事前の入試相談がない
- 入試成績上位者に対し、入学後の特典なし
- 学力検査を実施しない。(面接、小論文、作文、集団討論等を実施)

【私立】

- 評定値等の明確な基準があり、出願資格としている。
- 事前の入試相談がある 中学校教員が高校に出向き、基準の確認等を行う
- 成績上位者に対し、入学後の特典を与える高校がある(入学金等免除)

合格力をつけよう③

本校の推薦基準

本校の推薦基準

- ①推薦を希望する学校を志願する理由や、入学後の目標が明確であること
- ②「第一志望」で合格した場合は、その学校に必ず入学すること
- ③基本的な生活習慣が確立し、学校のルールがきちんと守られていること
- ④授業に真剣に取り組み、学力の向上に励んでいること
- ⑤上級学校（私立等）が基準としている評定や欠席日数などの条件を満たしていること
- ⑥上級学校の求めている生徒像（リーダー性、ボランティア経験等）に見合っていること

中学校英語

スピーキングテスト(ESAT-J)

【必要な生徒のみ1】特別措置が必要な方へ

【注意】特別措置の申請は、「受験申込前」に完了しなければなりません。
申請が必要な場合、あらかじめP.7～8をよく読み、準備を進めてください。

- 本試験では、障害等のために特別措置が必要な生徒を対象に、「特別措置対応」を行います。
- 申請する特別措置を選ぶ際は、保護者や学校の先生と相談し、障害の程度や通常の学習状況を考慮したうえで、必要な措置をお選びください。
- 詳細は、『特別措置に関する案内書』（入手方法はP.8に記載）を参照してください。

措置区分	措置内容	
1	点字資料による受験（時間延長あり）	
2	視覚関係（点字・弱視関連）	
3	拡大問題冊子による受験（時間延長あり）	
	拡大問題冊子による受験（時間延長なし）	
4	視覚関係（色弱関連）	
	白黒印刷問題冊子による受験（時間延長なし）	
5	聴覚関係	
6		音（音声）を文字化した問題資料での受験（音声の聞き取りなし）
7		音（音声）を文字化した問題資料での受験（音声の聞き取りあり）
8	きつ音・発話障害関係	
	解答時間の延長	
9	上肢不自由	
	受験会場等に関する措置	
10	発達障害	
	受験会場等に関する措置（時間延長あり）	
11		
	受験会場等に関する措置（時間延長なし）	
12	下肢不自由	
	受験会場等に関する措置	
13	その他（持病・心理面での配慮が必要な場合等）	
	受験会場等に関する措置 ※生徒が利用するカナル型マイク付きイヤホンの、イヤピースには、シリコン樹脂を使用しています。また、イヤホン部分には、磁石を使用しています。何らかの理由でカナル型マイク付きイヤホンを利用できない場合は、本区分にて申請を行い、カナル型マイク付きイヤホンが利用できない旨を自由記述欄に記載してください。	
14	日本語の補助	
	日本語に対する補助 【申請条件】国籍を問わず、入国後の在日期間が本テストを受験した日の翌年4月1日現在、原則として6年以内の者で、日本語指導を必要とする者	

※複数区分の申請も可能です。ただし、一部の措置区分で同時に申請できないものがあります。
詳しくは、「特別措置に関する案内書」にてご確認ください。

特別措置申請について

学校ID登録

6月

特別措置申請

7月7日(木)～8月5日(金)

登録確認

9月1日(木)～

受験票配布

11月中旬

受験

11月27日(日)

小金井市立小金井第二中学校

令和4年度 第1回進路説明会

【本日の流れ】

- ① 学校長より
- ② 心構えについて
- ③ 入試制度および概要について
- ④ 今後の進路スケジュール、奨学金制度等について

今後の主な進路年間スケジュール①

1学期期末考査
6月15日～17日

7月

8月

9月

第2回進路希望調査

～7月4日

三者面談

7月22日～27日

現状の
希望等確認

高校見学

第2回実力テスト

8月26日

志望校等の検討

2学期中間考査
9月8日～9日

音楽祭

受験方式の検討

今後の主な進路年間スケジュール②

修学旅行
10月9日～11日

10月

11月

12月

第3回進路希望調査

10月17日

第2回進路説明会

三者面談

10月26日～11月2日

志望校・受験方式
仮決定

第4回進路希望調査

2学期期末考査

11月9日～11日

内申点 見込み確定

三者面談

11月30日～12月8日

志望校・受験方式
確定

推薦願い
併願優遇願い提出

私立入試相談

出願書類準備

志望校・受験方式
最終確認

奨学金制度について

令和4年度
受験生チャレンジ支援貸付事業

中学3年生
高校3年生等に
塾費用や受験料を
無利子で貸付

高校、大学等に
入学した場合
返済が免除

中途退学した方の
再チャレンジにも

貸付資金の内容	
学習塾等受講料貸付金	
対象	中学3年生・高校3年生又はこれに準じる方 ^{※1}
貸付限度額	200,000円(上限) 1人の子例に対して、複数年度に渡る利用はできません。 ^{※2}
貸付の範囲	対象となる学習塾等の費用 ^{※3}
受験料貸付金(高校受験料)	
対象	中学3年生又はこれに準じる方 ^{※1}
貸付限度額	27,400円(上限) 1人の子例に対して、複数年度に渡る利用はできません。 ^{※2}
貸付の範囲	対象となる高等学校等の受験料 ^{※3} ・1度の貸付で4校(校)分の受験料まで貸付可 ・1校当たりの受験料は2万3千円まで
受験料貸付金(大学受験料)	
対象	高校3年生又はこれに準じる方 ^{※1}
貸付限度額	80,000円(上限) 1人の子例に対して、複数年度に渡る利用はできません。 ^{※2}
貸付の範囲	対象となる大学の受験料 ^{※3}

※1 準じる方とは、中学3年生又は高校3年に在籍していない進学を目指す方(高校・大学等
中途退学者、高等学校定時制合格者、定時制高校4年生、浪人生、編入希望者等)です。
※2 ただし、中学3年生のときに貸付を受け、高校3年生で再度申し込みは可能です。
※3 目的を問わずる市の公的施設を利用している場合、他の公的施設で受けた額以上に
返済が必要ない場合も、その範囲について申請可能です。
※詳細については、お住まいの区市町村窓口へお問い合わせください。

ご利用いただける方
次のすべてに該当し、区市町村窓口において受験生チャレンジ支援貸付事業の
対象者であると判断された方

- ① 親(養育者(実父となる受験生)を養育する世帯の生計中心者(18歳以上)であること、
- ② 世帯(父母等養育者)の総収入又は合計所得金額が一定の基準以下であること。

世帯収入	世帯収入	世帯収入	世帯収入	世帯収入	世帯収入
1世帯	2世帯	3世帯	4世帯	5世帯	6世帯
14,000円	16,000円	18,000円	20,000円	22,000円	24,000円
16,000円	18,000円	20,000円	22,000円	24,000円	26,000円

③ 親(養育者)が、病気や災害(道路上の交通事故を除く)、
自死(自殺)などで死亡し、または1～5歳の障がい認定(注1)
を受けていて、経済的な援助を必要としている家庭の子ども。
(注1) 次の障がい認定を受けている場合をいいます。
身体障害者福祉法、国民年金法、厚生年金保険法、精神障害及び精神障害者福
祉に関する法律、労働者災害補償保険法に定める第1級から第5級

お問い合わせ先
福祉保健局生活福祉部地域福祉課 03-5320-4072
お住まいの
区市町村窓口

東京都 R70

※このしおりは奨学金申請後も大切に保管してください

専修・各種学校在学生のみなさんへ 2022.4

あしなが専修・各種学校奨学金(無利子貸与給付) 専修・各種学校奨学生在学募集のしおり【2022年度】

申込みできる方

専修学校専門課程、各種学校に在学していて次にあてはまる学生。
または、高等専門学校や5年一貫制高等学校の4・5年生に在学していて、
次にあてはまる学生。

保護者(父または母など)が、病気や災害(道路上の交通事故を除く)、
自死(自殺)などで死亡し、または1～5歳の障がい認定(注1)
を受けていて、経済的な援助を必要としている家庭の子ども。

(注1) 次の障がい認定を受けている場合をいいます。
身体障害者福祉法、国民年金法、厚生年金保険法、精神障害及び精神障害者福
祉に関する法律、労働者災害補償保険法に定める第1級から第5級

※ 修業年限1年未満の学校や、無認可校、職業能力開発施設は
対象になりません。

申請のしめきり

2022年5月20日(消印有効)

奨学金の内容

この奨学金は「無利子貸与+給付」型です。貸与のみ、給付のみの選択はできません。

貸与部分は卒業の半年後から20年以内に返還していただきます。経済的事情などで返還困難である
ことが認められた場合は、返還を先に延ばすことができます(詳しくは3ページ)。

1. 奨学金の金額
月額70,000円(うち貸与40,000円、給付30,000円)
2. 奨学金を受けられる期間
2022年4月分から卒業(最短修業年限)まで。第1回目の送金は2022年7月です。
3. 送金方法
3か月ごとに3か月分の奨学金を、奨学生本人名義のゆうちょ銀行の口座に送金します。

- 1997年(平成9年)4月2日以降に生まれた方が対象です。
- 募集人員についてはホームページをご参照ください

お問い合わせ・提出書類送付先 一般財団法人あしなが育英会 奨学課
〒102-8639 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階
FAX (03)3221-7676 E-mail shougaku@ashinaga.org ホームページ www.ashinaga.org
フリーダイヤル 0120-77-8565 (平日9時～17時)



高等学校・高等専門学校奨学金

予約の方

2023年度の高等学校・高等専門学校奨学生
の予約募集は秋に行う予定です。詳細
が決まり次第ホームページに掲載いたし
ます。
また、申請書ご希望の方は、電話または「0
1. 申込用紙の取り寄せ」にあるフォーム
からお申し込み下さい。詳細決定後の秋
頃にお送りいたします。

在学の方

月額

国公立:45,000円(内貸与25,000円・給付
20,000円)

私立:50,000円(内貸与30,000円・給付2
0,000円)

募集人数

320人

対象

高校・高専に在学している人

小金井市立小金井第二中学校

令和4年度 第1回進路説明会

ご清聴ありがとうございました!